

北曲雜劇「雲窓夢」第三折に関する考察

福永美佳

一 はじめに

明代無名氏作の北曲雜劇「鄭月蓮秋夜雲窓夢」（以下「雲窓夢」と称す）は、妓女鄭月蓮が書生張均卿と結ばれる話である。

現在確認される「雲窓夢」テクストは、次の七種である¹。

- (一) 脈望館鈔校于小穀本「鄭月蓮秋夜雲窓夢」
- (二) 『詞林摘艷』「秋夜雲窓夢雜劇」第一折、「雲窓夢雜劇」第二折
- (三) 『詞謳』「鄭月蓮秋夜雲窗夢」第一出
- (四) 『楊夫人樂府』「仙呂點絳唇」一套
- (五) 『盛世詞林』仙呂目録「驕馬吟鞭」一套、中呂目録「皓月澄澄」一套
- (六) 『北詞譜』「雲窓夢」仙呂宮「村里迓鼓」【後庭花】の二曲、【尾声】から一句。中呂宮【十二月】。

(七) 『北詞廣正譜』「雲窓夢」仙呂宮【村里迓鼓】(後庭花)の二曲、【尾声】から一句。中呂宮【十二月】。

このなかで（一）は明の宮廷における上演用テクストの写しとして知られるもので、セリフやしぐさを完備する唯一の戯曲テクストである。これ以外は、劇としてみればストーリーの一部しか伝わらないテクストである。しかも、ここに挙げた七種すべてがそろうのは第一折に限り、それ以外は第三折が（二）（二）（五）（六）（七）に伝わるだけである²。

筆者は右に挙げた七種のテクスト間の異同にもとづき、明代の嘉靖年間にテクストの校合によつて粗本を再建する運動が起きてることを明らかにしている³。本稿は、このなかで紙幅の都合により取り上げることができなかつた第三折を対象に、五種のテクスト間の異同を考察し、「雲窓夢」第三折には宮廷

本系統のテクストと、民間本系統のテクストの一系統が存在することを明らかにする。

二 曲牌の違い

先述したように第三折が伝わるテクストは、脈望館鈔校于小穀本「鄭月蓮秋夜雲窓夢」（以下、「（于）雲窓夢」と称す）、『詞林摘艷』「雲窓夢雜劇」（以下、「（林）雲窓夢」と称す）、『盛世詞林』中呂目録「皓月澄澄」（以下、「（盛）皓月澄澄」と称す）、『北詞譜』「雲窓夢」中呂調【十二月】（以下、「（北）雲窓夢」と称す）、『北詞廣正譜』「雲窓夢」中呂調【十二月】（以下、「（廣）雲窓夢」と称す）の五種である。

諸本の異同として挙げられるのは、曲牌名および数である。テクストごとに曲牌名を示したものが、次の表である。なおテクストを引用する際は、字体を区別し、可能な限り原文どおりに記す。

この表で示すように、曲牌数はテクスト間で大きく異なる。「（于）雲窓夢」「（林）雲窓夢」「（盛）皓月澄澄」には、十九曲が伝わる。ところが「（北）雲窓夢」「（廣）雲窓夢」に伝わるのは【十二月】だけである。

1	（于）雲窓夢 [中呂粉蝶兒]	（林）雲窓夢 [粉蝶兒]	（盛）皓月澄澄 [粉蝶兒]	（北）雲窓夢 [廣)雲窓夢
2	醉春風 [迎仙客]	醉春風 [迎仙客]	醉春風 [迎仙客]	
3	紅綃鞋 [朱履曲]	紅綃鞋 [朱履曲]	紅綃鞋 [朱履曲]	
4	石榴花 [石榴花]	石榴花 [石榴花]	石榴花 [石榴花]	
5	闢鵠鵠 [闢鵠鵠]	闢鵠鵠 [闢鵠鵠]	闢鵠鵠 [闢鵠鵠]	
6	普天樂 [上小樓]	普天樂 [上小樓]	普天樂 [上小樓]	
7	普天樂 [上小樓]	普天樂 [上小樓]	普天樂 [上小樓]	
8	上小樓 [上小樓]	上小樓 [上小樓]	上小樓 [上小樓]	
9	幺 [幺]	幺 [幺]	幺篇 [幺篇]	
10	快活三 [快活三]	快活三 [快活三]	快活三 [快活三]	
11	鮑老兒 [鮑老兒]	鮑老兒 [鮑老兒]	鮑老兒 [鮑老兒]	
12	十二月 [十二月]	十二月 [十二月]	十二月 [十二月]	
13	堯民歌 [堯民歌]	堯民歌 [堯民歌]	堯民歌 [堯民歌]	
14	俏遍 [要孩兒]	俏遍 [要孩兒]	俏遍 [要孩兒]	
15	三煞 [要孩兒]	三煞 [要孩兒]	三煞 [要孩兒]	
16	四煞 [要孩兒]	四煞 [要孩兒]	四煞 [要孩兒]	
17	三煞 [要孩兒]	三煞 [要孩兒]	三煞 [要孩兒]	
18	一煞 [尾聲]	一煞 [尾聲]	一煞 [尾聲]	
19	尾煞 [尾聲]	尾煞 [尾聲]	尾煞 [尾聲]	

このようにテクスト間で曲牌数に差があるのはテクストの性質に起因するものであろう。戯曲の選集

である于小穀本、曲選である『詞林摘艷』『盛世詞林』では歌辞の内容を伝えることが重視され、ある程度まとまつた形で残されていると考えられる。これに對し、曲譜である『北詞譜』『北詞廣正譜』では、曲律を載せることが優先された結果、必要な部分のみ切り取られたのである。

また、曲牌名においても違ひがある。一つは四曲目ににおいて、「(于) 雲窓夢」及び「(盛) 皓月澄澄」では【紅綉(繡) 鞋】とあるが、「(林) 雲窓夢」では【朱履曲】とある。先行研究によれば【紅繡鞋】と【朱履曲】とは同じものとされ、内容上の異同はない⁵。この他、十六曲目から十九曲目にある四曲は、「(于) 雲窓夢」では【四煞】【三煞】【二煞】【尾煞】の順だが、「(林) 雲窓夢」では【三煞】【二煞】【一煞】【尾聲】の順であり、「(盛) 皓月澄澄」では【要孩兒】【要孩兒】【要孩兒】【尾聲】の順である。これらは曲牌名こそ違つが、内容はそれぞれ対応している。

それでは、歌辞にどのような相違があるだろうか。

三 歌辞の異同

まず【石榴花】を挙げる。(例①)

(于) 聽的唱陽關歌曲腦門疼、委實的倦聽、慘然悽聲。
(林) 聽的唱別離歌曲腦門疼、委實的倦聽、慘然悽聲。
(盛) 聽的唱別離歌曲腦門疼、委實的倦聽、慘然悽聲。

(北) なし

(廣) なし

(二) は「(北) 雲窓夢」「(廣) 雲窓夢」には伝わらない。傍線部において「(于) 雲窓夢」では「陽關歌曲」であるが、「(林) 雲窓夢」及び「(盛) 皓月澄澄」では「別離歌曲」である。陽關曲とは、唐代王維の七言絶句「送元二使安西(元二の安西に使いするを送る)」にもとづく曲で、別れの歌として名高い。ゆえに「陽關」と「別離」が意図するものは同じということになる。ところが、「(于) 雲窓夢」では典故を用いて暗示するのに対し、「(林) 雲窓夢」「(盛) 皓月澄澄」では直接的な表現を用いている。これは明らかな差であり、宫廷本系列の「(于) 雲窓夢」と、「(林) 雲窓夢」及び「(盛) 皓月澄澄」とは系統が分かれることを示している。

それでは「(林) 雲窓夢」と「(盛) 皓月澄澄」には異同が存在しないのか。次に【三煞】「(林) 「雲窓夢」では【二煞】、「(盛) 皓月澄澄」では【要孩兒】」を挙げる。(例②)

(子) 憶人心半窓裏裏踰梅影、
聴人耳萬種瀟瀟落葉
聲。

(林) 憶人心半窓裏裏踰梅影、
聴人耳萬種消消落葉
聲。

(盛) 憶人心半窓裏裏踰梅影、
聴人耳萬種瀟瀟落葉

聲。

(北) なし
(廣) なし

ここも「(北) 雲窓夢」「(廣) 雲窓夢」に伝わらな
い。傍線部では、「(子) 雲窓夢」が「嫋嫋」であり、

「(林) 雲窓夢」「(盛) 皓月澄澄」が「裊裊」である。

「裏」は「嫋」の異体字であるため意味の違いはなく、
ここでは梅の木の影が「ゆらゆら」する様子を形容
している。また、波線部では「(子) 雲窓夢」が「蕭蕭」
とし、「(林) 雲窓夢」が「消消」とし、「(盛) 皓月澄澄」
が「瀟瀟」とする。これらは、字が違うが音は同じ

で落ち葉の落ちる「ざわざわ」という音を表すもの
である。つまり、例②の異同は表記法の差であつて
内容上の差ではない。よつて、例①及び例②にもと
づけば「(林) 雲窓夢」と「(盛) 皓月澄澄」とが同
じ系統であると考えられるのである。

そのほか「(北) 雲窓夢」「(廣) 雲窓夢」ではどう
だろうか。五種類のテクストが伝わる【十二月】を
挙げる。(例③)

(子) 可接 抱在懷兒里、 觀定着這短命牢成。

(林) 可接着 懷兒裏抱定。 觀 着這短命牢成。

(盛) 可接着 懷兒裏抱定。 觀 着這短命牢成。

(北) 可接着 懷兒裏抱定。 觀 着這短命牢成。

(廣) 可接着 懷兒裏抱定。 觀 着這短命牢成。

ここでは「(子) 雲窓夢」を除くすべてのテクスト
の本文が一致している。このように「(北) 雲窓夢」
「(廣) 雲窓夢」が、「(林) 雲窓夢」「(盛) 皓月澄澄」
と本文が一致していることから、この四つのテクス
トが同系統であると考えられる。また、例①をふま
えると、宫廷本に由来する「(子) 雲窓夢」と、民間
由来のテクストとは明らかに系統が異なるといえる。

四 おわりに

id=157091.0

北曲雜劇「雲窓夢」第三折を有すテクストは五種ある。その五種とは、「(子)雲窓夢」「(林)雲窓夢」「(盛)皓月澄澄」「(北)雲窓夢」「(廣)雲窓夢」である。

これらテクストは、二系統に分けられる。一つが、宮廷本に由来する「(子)雲窓夢」の系統である。

もう一つが、「(林)雲窓夢」「(盛)皓月澄澄」「(北)雲窓夢」「(廣)雲窓夢」の系統である。全体的にみて第三折は、第一折に比べて異同が少ないが、そのわずかな異同からも宮廷本と民間本とは系統が分かれることが見て取れる。これは第一折の考察の結果とも矛盾が生じない。

1 本稿で使用したテクストは次のとおり。

①『脉望館鈔校本古名雜劇』第八冊 張琦美輯 (綫裝書局、

二〇一六年) 所収

②『詞林摘要』張祿輯 明嘉靖四年刻本影印 『續修四庫全書』

一七四〇冊 (上海古籍出版社、一九九五年) 所収

③『盛世詞林典故大全』第四冊 明無名氏編 明鈔本 中国国家図

書館「中華古籍資源庫・数字古籍資源庫」

(<http://read.nlc.cn/OutOpenBook/OpenObjectBook?aid=892&bid=1203750>)

④『北詞譜』第一冊 徐慶卿編 中国国家図書館「中華古籍資源庫・数字古籍資源庫」

(<http://read.nlc.cn/OutOpenBook/OpenObjectBook?aid=892&bid=1203750>)

⑤ 〔1〕笠菴北詞廣正九宮譜 李元訂 清康熙間文靖書院刊本
〔2〕「(子)雲窓夢」には幕の切れ目を示すものがない。便宜上、北曲

雜劇において幕切れを示す「折」によって区切る。

〔3〕福永美佳「李開先以後に見られる本文批評の実践と祖本再建」(近

日中に公開予定)

〔4〕「(林)雲窓夢」では、【上小樓】の歌辞のあとに統いて【幺】を

載せる。

〔5〕鄭齋「北曲新譜」(芸文印書館、一九七三年)によると、【紅綺鞋】と【朱履曲】は同じものとされる。

※本研究はJSPS科研費一九K一三〇九二の助成を受けたものです。